

2007アメリカ体験旅行 保護者の感想

● アメリカ体験旅行を通して

10日間の旅行は、わが子にとって今まで経験した事のない大冒険だったと思います。フラフラで帰国した翌日の第一声です。「あーまたアメリカ行きたい!!お小遣いをためてまた行こう!」こういう気持ちにさせて下さったレジェンドの皆様に心から感謝いたします。

我が子の得たもの

- ・ フレンドリーなアメリカの人々に心から歓迎され、すぐ親しくなれました。自分が逆の立場になった時もこの様に接したいと感じたそうです。
- ・ 一人の気の緩みから大事件へ巻き込まれてしまう事、現地の子供達が小さい時から頭にたたきこまされていた事が、2年前のキャメリアマッチでの選手達の行動だったのだとつながったそうです。
- ・ 団体行動では、一人のほんのささいなルーズがだんだんと周りへ波及して、結果的に多くの人々に迷惑をかけてしまう事。それを未然に防ぐ為には、リーダーとなる人が、かなりの労力で気を遣いながらまとめていく…。大野コーチたち、保護者の方々を側で見ていて大変だなと実感しました。

● “アメリカへ私も行きたい!”という娘の一言から始まった今回の参加でしたが、無事旅行を終え元気に帰って来た今、様々な準備の大変さや、一人で海外へ送り出す事の不安や心配は消え去り、娘が体験した信じられない程すばらしい出来事に、この旅行に携わってくださった全ての方々にとっても感謝しています。出発までの準備期間においては、アメリカ組での練習、練習試合、異文化レッスン等々、計画的に組み立てられており、学校の部活や試験などと両立させながら、子供なりに頑張って取り組んでいたと思います。とはいえ、異文化レッスンにおいて、メモを取らない子供達、積極性のない態度、無反応な子供達に、何度となくイライラしたのも確かですが、基本的には子供が受けるはずのレッスンでしたが、毎度の親ばかりで後ろに陣取り、まるで自分達も何年ぶりに受ける英語の授業のよう…すみませんでした。シャッフルホームステイは、受け入れるまでは少し不安でしたが、来てくれた子の性格の良さもあって、とても新鮮で楽しく、それぞれの家庭の文化(?)の違いという点では、これもまさしく“異文化レッスン”でした。いい思い出になりました。

いよいよ出発!複雑な気持ちの親とただただ楽しみに胸をふくらませている娘、親離れ、子離れのいい機会だとも思い参加させたはずが、すでに親離れしている子供とまだまだ子離れできていない親を実感する事になってしまいました。情けない。

そして10日のすばらしい体験をした子供達を迎え、各家庭へ。しゃべりっぱなしの娘の話を聞き、いただいた、たくさんのお土産を見て、どれ程皆さんのお世話になったか、どれ程いい経験をさせてもらったか、痛い程伝わってきました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。そして、子供には、少し変化がありました。外出先や道を歩いている時ですが、回りに気を使ったり、ドアを開けてくれたり、後ろから来る人や自転車に気付いたり…残念ながら親への反抗的な態度は変わりませんが、きっと心の中ではもっと大きな変化が起こっているんだろうと期待をしています。子供の“すごく楽しかった。もっともっとアメリカにいたかった。またレジェンドでアメリカ体験旅行がある時には、絶対私も行きたい!!!”と目を輝かせて、笑顔で話すのを見て、私達親は今回の旅行に参加させて本当によかったんだと実感しています。ありがとうございました。

● 日本しか知らない(正確には日本のごく一部しか知らない)親が、世界を見ておいで、と送り出したアメリカ行きでした。ですから、最初、本人はどれほどのことを期待して参加したのかよく分かりません。

やっぱり、と思ったのは異文化レッスンに参加した時です。レッスンを受ける姿勢が完全に受け身、というより無気力、無関心に見えました。定期練習にしてもただ参加しているだけ、何の目標も持っていないように見えて、何ともしたいないことだろう、とそばで見っていました。

アメリカ行きを勧めたのは親のおせっかいだったのかなあと後悔することも度々あったのですが、異文化レッスンの回数を重ね、シャッフルホームステイも終わった頃、アメリカ行きが楽しみだと娘が言いました。観光を楽しみにしているものと思いましたが、何とホームステイが一番の楽しみだと言うのです。意外でした。きっと異文化レッスンのおかげで少しずつ興味が持てるようになり、シャッフルホームステイ先の〇〇家の皆様に温かいおもてなしのおかげだとありがたく思いました。

出発間際までなかなか準備がはかどらず母もやきもきしていましたが、スーツケースを祖父に借りる連絡をしたり、持っていく物のリストを作ったり、買い物に行く時間を作ったりと、わが子なりに考えて行動していたことを後で知りました。当たり前のようなことですが、そんなことでも、言われなくても考えられるようになったこと、できるようになったことが、今から思えば、小さな変化だったのかな、と思います。

10日間のアメリカでの生活を終えて帰って来たわが子は、何か変わったところはないように見えます。ただ、娘の姉は「以前より優しくなった。コミュニケーションをとろうとしてくれている」とうれしそうに話していました。今すぐ何かが変わることは期待していませんが、アメリカで体験したこと、感じ取ったことを忘れずに今後も生活してほしいと願っています。出発するまで、わが子は一度たりとも不安を口にしませんでした。あまり深く考えてなかっただけかもしれませんが、レジェンドの仲間と一緒にいること、そして、コーチ達がいつもそばで見守ってくれていることが大きな安心であったようです。またアメリカに行きたいそうです。レジェンドの仲間と一緒にいいそうです。

● 旅先で、不自由のないようにあれこれ心配して準備をしましたが、余りに準備物リストに頼っていたので、リストになかった一番大事なユニフォームと、バッシュをすっかり忘れていました。

最後の異文化レッスンで、お土産のためガラガラで、行動はジャージで、私服はいらぬという事で、本当に気が楽になりました。着るものは、最低の練習着、パジャマ、トレーナー、ホッカイロ、マフラー、Tシャツ、パーティ用の服だけでした。

今回は、余り寒くなかったようなので、これで良かったのかどうか分かりませんが、帰りは楽々だったそうです。出発してからは、心配ばかり。連絡網で「秦さんより、無事について時差ぼけながらバーガーを食べている。」と連絡をいただき、本当にほっと致しました。過保護かなと思いつつ、チョット連絡が取ればいいなと思いました。同行スタッフ、サクラメントの皆様には本当にお世話になりました。大変喜んで帰って参りました。いい経験が出来良かったと思います。

● 「日本人としての誇りを持ちつつ、日本人であることを意識せずに過ごした。そうすることで、今回の体験が自分にとってより素晴らしいものになったと思った」これは、日本に帰ってきた息子が話してくれた言葉です。昨年の8月中学総体の四国大会での敗北のショックから出席できなかったアメリカ体験旅行のための説明会でしたが、貴重な体験への期待は、本人の心の中に秘められていたのです。

8月末、息子は高額な経費のことが気になり参加を悩んでいましたが、私達の勧めでアメリカへ行くことを決めました。私たちは、成長途上の息子がたくさんの人と出会うこと、チャンスをつかむことを大切と考え、

今回の体験旅行にも、それらの機会が多く含まれていると感じていたので。

その後、息子はアメリカ体験旅行のために、バスケの練習と異文化レッスンに励みました。高校入試に向けての勉強を最優先し取り組む中で、気分転換の材料としてもバスケを楽しんだようでした。受験勉強中に苦手と思っていた英語が徐々に得意になり、新しい自分が見えてきたようでもありました。アメリカへ行き、実践することを楽しみに感じられるようになっていたと思います。

そのような時間を過ごす中で、2月は県立高校入試直前で、“目標”に向かって勉強に集中していましたが、合格発表からすぐアメリカへの出発だったため、3日間で忙しくホームステイ先への準備をしたり、荷物をまとめたりしました。松山空港へ行くまでの車の中で、息子は「しっかり英語を話して、いろんなことにチャレンジして楽しんでくるよ」と言っており、ややたのもしく感じられました。

そうして帰ってきた息子は、毎日たくさんのお話をしてくれています。その息子との会話は、今までのものとは、全く違い大人に近づいたものを感じるのです。まず、驚いたのは、親に対しての感謝の言葉が一言目に出たことでした。アメリカでたくさんの人に出会ったこと、とくにホームステイをしたことで、世界のいろいろなことを自分の目で見て、触れて、感じる事ができたようです。他国の人とコミュニケーションをとることがどんなに楽しいことか・・・人権や国籍を越えて人を好きになれたことで、アメリカという国にも愛着がわき、帰国しても全ての外国が気になるようになったと言います。

また、これから自分たちが生きていく日本の社会を真剣に考えていきたいと話します。そして、もっと外国へ出かけ、自分に力をつけていきたいとの目標も話してくれました。SASFトーナメントでバスケの試合に参加し、仲間とともに、汗を流して戦ったこと、歓迎パーティがあったこと、バスケボールクリニックを受けたこと、ホストの生徒が通う学校へ行ったこと、サンフランシスコへ行ったこと、帰り空港でホストファミリーとの別れがあったことなど「笑いと涙」は息子にとって忘れることのできない強烈に心に残った思い出が全て、本人の宝物になったと思っています。

中学3年生のこの春休みにアメリカに行ったことは、息子が高校生になっても自分が何に向かって進めばいいのかを指し示してくれる指針となることでしょう。その機会を与えていただいたすべての皆様に感謝申し上げます。

正直言って、受験との両立は大変でした。本人は、確固たる信念を持って、アメリカ行きを決断して、行く気満々ではありましたが、中々それが気持ちよく旅行に出発するために、勉強にも集中して頑張るということに、直結してゆかず、親の方が胃に穴が開く思いでした。

その反面、みんなとの練習や練習試合には、積極的に参加しようとしていましたし、異文化レッスンも毎回楽しみにしていました。しかし最後まで(中学校では、英語でべらべらしゃべっていたらいいのですが)積極的に、英語でしゃべる姿を異文化レッスンの場では、見る事ができず、残念に思っていました。異文化レッスンは、親も勉強になり毎回楽しみにしていました。

19日の出発があるまでは、中々支度する気になれず、本当に、あわただしい出発になってしまいました。バタバタすぎて、無事出発した後は、この一年間の心配事(無事アメリカ体験旅行に出発できるかどうか)が解消されて、ホッとするばかりで、ちっとも淋しくはありませんでした。

シャイな面が多々あるわが息子ですが、少しは改善されたでしょうか?アメリカから帰ってきて、行動が早くなったように思います。もっとだらだらするかと思っていたのですが、すぐ高校の課題に取りかかったり、向こうのコーチの方に、背筋をもっと鍛えないと・・・と言われたとかで、運動してみたり、前向きになったように思います。相変わらず、ほとんど、何もしゃべってくれないわが息子ですが、息子の一生に多大なる影響を与えたであろう今回の体験旅行、本当に行かせてよかったと思います。息子の口から、自発的にいろいろな感想を聞くには、4日では短すぎますので、又、ポチポチ、しゃべってくれるのを楽しみにしております。

● サクラメント行きについて息子と話したとき「どうするか考える」というところから始まった。申し込み期限の日に「俺、行くけん」と言ったこと、いろいろな経験をして欲しい、本場でバスケットを味わせてやりたい、という親の立場から申し込みをした。実際に異文化レッスンが始まり月一回の練習に参加することが受験を前に難しい時期もあり本当にこれでよかったのか思うこともあった。息子も異文化レッスンや月一回の練習にはうれしそうに参加するものの本人の身についているかどうか不確かな部分も大いにあり本人はどのような意識をもって参加するのだろうと不思議に思ったこともあった。

異文化レッスンの中で親として反省させられたことは、交換した息子さんを十分にお世話できなかったことである。男子ということもありおばちゃんと一緒に何かするということがお互いに抵抗があった。後の反省会で知ったことだが、2日目は友達と一緒にバスケットボールをすると出かけたのだがなんと自宅に帰って過ごしていたらしい。預かった者として大いに反省すべき点であった。それと同時にマニュアルとまでいなくても必ず家庭で過ごす、塾等の送り迎えをする、など最低限のルールを作っていただけであれば男子はもっと一緒に過ごすことが出来るのではないかと少なからず思ってしまった。

サクラメント準備で色々な物を準備するのに準備物を教えていただきとても準備しやすかった。シャツは何枚いるだろうか、シャンプーや石けんは必要なかどうしても口出ししすぎてしまうところ準備物の紙をみながら自分で用意していた。きちんと自分のこととして捉えている息子に成長を感じながら十分にサクラメントで楽しんできてほしいと思った。しかし、寝静まった息子を確認し荷物確かめた親ばかりである。

息子のいない我が家は、年度末をむかえてばたばたしていた父母にとって、寂しさを感じるまもなく忙しくあつという間に過ぎてしまった。国際電話には出られなかったものの、パソコンに向かってメールがきていないかと確認していたことは事実である。帰って来た第一声が「なんで電話でんかった」と言われショックもあった。帰宅後1日は時差でぼーとしていた様子だったが色々なことを話し出した息子にきつといい経験や体験をしたのだろうと思った。いつもよく話す上にサクラメント話が永遠に続いている現在である。息子の中で「高校にいったらバスケットはしない」という決心は変わらないようだが、このサクラメントでの経験が彼の人生の中で生かされていく時期があってほしいと願っている。

最後に大野さんを始め山口さん、持田さんには本当にお世話になりました。いつもお調子ばかりしていた息子ですが笑顔で帰ってきたことがツアーの全てを物語っていたと思います。

● 息子の最初の変化は“チーム練習と異文化レッスン”に参加するために塾の先生に全て自分で交渉してきた事でした。中3受験生・・・欠席に厳しく理路整然と叱咤激励して下さる塾で、ほとんどが通塾日と重なるというまさかの状況でした。志願高に決して楽々ではない中で、「ちゃんと話して来た!俺は行くけん!!」という言葉に、いつも「うまくなりたい」と言う息子の「本当に上手になりたい!」「本場のチームを体験したい」という強い意志を感じました。とつても高い第一ハードルのクリアでした。

親としては、反抗期のこの時期、家族以外の人々から受ける学びは、とても大きいと思っていました。特に、自分自身が尊敬し、納得できるコーチと11日間寝食を共にしつつ、人としての行動に厳しく指導して下さり大好きなバスケ・・・ともなれば、何事にも変えられないという思いの参加決定でした。

実際に帰国後の彼は、頼もしく感じられる場面が出てきたり、幾分物事に対して“考える”という姿が少し見える事、そして、楽しくて、楽しくて、しかたがなかったという事が、体中からあふれ出ています。ここ数日、写メを見せながらの彼は、饒舌です。

世の中には、違う文化があり、違う人間があり、自分の世界のバスケットとは異なるバスケットを生で見、体験できた事は、すべてが将来の大きな引き出しの一つとなり得た事でしょう。

今もホームステイ先の友人、その友人達と楽しそうにメールのやりとりをしています。中3の単語量でのコミュニケーションは、“通じない相手との伝達を成立させる”という貴重な経験もできました。(ホームステイ先の

ママのと、自分の電子辞書は大活躍だったそうです。)

今まで、ミニバス未経験で始めたバスケットで、どうしても追いつかないのか・・・というジレンマをかかえていた彼にとって、日本人のMVP?(と本人は言いはるのですが・・・)や3ポイントゲームで賞をいただいた事は、とても自信になり、高校でのバスケットの希望となったようです。四国大会・受験・サクラメントと彼の充実した熱い中3は幕です。

そし、帰国した日の「あ～風呂につかりたい」と言葉はやはり、日本人でした。

こんなに大きい宝物をいただいた事に「感謝」です。ありがとうございました。私共の目には届かない数々のお気遣いに思いをめぐらせつつ・・・ありがとうございました。

●
少し日焼けして逞しくなった顔で、息子は帰国した。この10日余りで、彼は何を吸収し、どう変わったのか・・・空港で、その背中を見送った時、私の心は複雑だった。出発前夜遅くなるまで、ダラダラと過ごし、何度声掛けをしても荷作りを始める気配もなく、その自覚の無さに呆れていた。今思えば、押さえきれぬ緊張感と興奮を静めるように兄妹とふざけていたのかと思うが、その時はあまりにも情けなくて、短気な私は、彼を放り出して先に寝た。

声がけとフォローは、気の長い父がしてやり、無事出発を迎えたようだ。(この手助けが必要か否かは、いつも疑問であるが・・・)車の中で、一言も言葉を交すこともなく空港に着いた。その先は、皆の中に紛れ、目を合わすこともなく旅立った。せっかくの旅立ち・・・優しい笑顔とあたたかい言葉で送り出してやりたかった。しかし、直接かけられなかった言葉を心の中で何度も繰り返した。「あなた1人で旅に出れるのではないですよ。いろんな方々の力を借りて、レジェンド松山の一人として出かけるのです。甘えは許されないので。しっかり頑張りなさい。」・・・と。

何かあったら後悔する、後味の悪い別れ方だったので、無事帰ってきて、心からホッとした。

解散式を終えて、家に着くまで、彼はとても素直だった。アメリカでの感動・感激・感謝を、絶えることなく語り続けた。(古川さんの声かけのお陰かしら?)

ホームステイ先のご家族の優しさ、夜中まで語り合った楽しさ、アメリカの暮らしのON・OFFの切り替えの素晴らしさ、バスケットボールのレベルの高さ、ズバ抜けた集中力、心から感じた楽しさ、再びアメリカを訪れたい、そして皆を日本に迎えたい希望など・・・この素晴らしいアメリカ体験で体ごと心から感じて、考えたことをこの先、1つずつ自分のものにして行って欲しいです。

帰国してすぐに、息子の成長を見つけれない鈍感な親で申し訳ないけれど長～い目で見守っていますから・・・。

●
異文化レッスン

毎回楽しく、あいさつの仕方や自己紹介の仕方などを学んでいたと思います。ただきちんとノートをとるともって良かったのではないかと思います。

出発1週間前

初めての海外で、自覚がないのか、準備もせず、他人事のように生活していました。

前々日

やっと準備することにエンジンがかかり、服があふれて入らないので、何を減らすか大奮闘していました。何度も、スーツケースを開けたり閉めたりしていました。お彼岸ということもあり、お墓参りに行き、「飛行機が落ちずに、無事に帰れますように」とお願いしました。

前日

用もないのに、スーツケースを開けたり、閉めたり、そわそわして、緊張しているみたいでした。最終チェックは出来たのかと、夜中にこっそり点検すると、バッシュが入っていません。大事な仕事道具を忘れ、なにをしに、

サクラメントへ行くのか、先行が不安でした。

当日

家を出る直前に身内から電話攻撃です。「気をつけて、行っておいで!」「飛行機大丈夫なん?」「おみやげ、よろしく!!」出発時刻を過ぎているので、イライラしながらも、対応していました。

帰国(松山空港)

飛行機から降りて来た、我が子を見つけ、一安心しました。ですが、何か疲れた顔、しかし愛想も悪い。うちの子だけかと思ったらみんな似た様な感じでした。

(自宅)

眠たいはずなのに、みんなから質問攻めに!!夜中は目が覚めるのか、なかなか寝付けないみたいでした。

(解散式まで)

毎日、昼3時くらいに眠くなるみたいで、毎日お昼寝してました。これでは、時差ボケもなおらないですよ。出発前より、社交的になり、自分の意見も、はっきり言えるようになり、すごく成長して帰りました。とても良い経験が出来たみたいで、感謝しております。

- 8月の説明会から、申し込みをして、出発までずっと、親子共々のんびりしていたように思います。本格的に気持ちが動き出したのは、出発1ヶ月前ぐらいでした。
特に苦労したのは、お土産選び。いろいろバタバタとあわただしく決めてしまいました。親は出発するまで、何か足りない物はないか?でも、それも分からないと不安な気持ち、子はいたって、のんびりと荷物を積んでいる。でも口も手も出さないと心を鬼にして(?)・・・(本当かなあ?)
出発後は、飛行機のトラブルのニュースで帰ってくるまでドキドキでした。
やっぱり今回のアメリカ行で、一番変わらないといけないのは親である私ではないかと思っています。子離れの出来ない親でついつい口も手も出してしまいます。子供達は、レジェンドに関わって、自分自身が考えて動くことを身に付けつつあります。(と思ってますが)それを親が妨げていた事を、あらためて、気づかせていただきました。
まだまだ親が成長してきていませんが、子供達に負けないように、子供と競争していきたいと思います。
最後になりましたが、今回の旅行でお世話になった、レジェンドスタッフの皆様、同行していただいた御父兄の方、そしてアメリカで子供達の為に大変な準備をし、最後までとても暖かく、お世話をいただいた方々、本当にありがとうございました。心よりお礼を申し上げます。この交流がずっと続くことを切に願っております。
- H19. 3. 22~4. 1アメリカ・サクラメント市への国際交流のメンバーの一員とさせていただきましたことに、感謝しております。この10日間、さまざまな貴重な体験をさせていただいた様子で、本人も大満足しており、思い出しては次々と話してくれます。すてきな思い出がたくさん作ることができたようで、嬉しく思います。この体験旅行におきまして、親としましては、とにかく団体行動であること。わがまま勝手は以っての外で、意思表示ははっきりするが、周りの空気を読むこと。何のためにアメリカへ来ているのか常に頭の中においておくこと。自分の荷物の管理はきっちりすること。以下の3点を口うるさく言うてきました。
いかに実行できたかは、本人のみが知ることで・・・。
これらを守りながら、楽しく過ごせたらいいな、と願うばかりでした。高校入学前のこの時期に、アメリカへ行くことができ、いい仲間とのいい経験ができましたことは、これからの人生で、何か役立つことを大いに期待します。

- 親が注意をした時に、ふてくされた態度をとる事がありました。素直さが以前より出てきたように思います。手伝いも以前より少しですが、してくれるようになりました。今のところ気づいた点は、このくらいですが、今後少しずつ変化が出てくれるのではないかと考えております。
- 今回、アメリカ体験旅行に参加させていただき、子供達はとても素晴らしい経験をさせていただきました。行く事が決まってからの、月に1回の異文化レッスン、サクラメントへ行くための定期練習。子供も大の苦手が英語の勉強…。苦手ながらも一生懸命に頑張りました。定期練習も休むことなく、頑張ったと思います。親の方も、初めての経験でした。パスポート作りから、ホームステイ先へのお土産選び、とまどう事も多かったです。
 10日間という長いアメリカ体験旅行、いざ出発と思うと、飛行機は無事着くのかな～とか不安な気持ちでいっぱいになりました。無事、サクラメントへ着いたとの連絡が入り、ほっとしました。考えてみると、あっという間の10日間でした。松山空港へ迎えに行き、子供の姿を見つけると、ちょっと涙ぐんでしまいました。無事に元気で帰って来た喜びと、子供がとても楽しかったと即答で言いました。
 帰って来た日は、疲れていたのか、即寝てしまい、話もろくにしないままでした。次の日にホームステイ先から、いただいたお土産や、試合の話、ホームステイ先の話、楽しそうに話してくれました。ホームステイ先の方々と、とても仲良くなったみたいで、まだ居たかったそうです。
 サクラメント空港では、見送りに来てくれて、別れる時ホームステイ先の家族と抱き合っただけ泣いたそうです。そんな話を聞くと、親が心配するほど、本人達は、意外とつぱに出来てたみたいです。
 帰りは、大野コーチが言われた通り、トランクに入りきれない荷物で帰ってきました。お土産も入らないから、買えなかったとボヤいていました。
 終わってみると、行く時にTシャツやトレーナーいろいろ持たせすぎたな～と思いました。洗濯もできるのだからあまり持たさなくても良かったかなと思います。
 本人は、アメリカでTシャツとかいっぱい買ったのに…トランクに入らなかったからあまり買えなかったと、残念がってました。
- 今回、サクラメント遠征に行く事になり、色々大変な事が沢山ありました。まずは、異文化レッスンです。普段から英語が得意でない子供が自己紹介や日本の文化を英語で説明できるように勉強し、ホームステイ先の子供さんとメールのやりとりなど子供も初めての事ばかりでとまどっていました。海外旅行も初めての事で、パスポートを取得したり遠征チームでの練習、その間には受験、高校入学準備などがあり、あっという間に時間が過ぎたように思います。買い物も、お土産物を買うのに日本独特な物を選んだり、どのような物がいいかと色々考えました。お茶碗・箸・のれん・手ぬぐいなどを選び、今思うと楽しかったように思えます。そして、スーツケースやパーティの服装、色々準備物が沢山あり大変でした。親の方が必死になってしまって、子供の方がほほんとしていたような気がします。お小遣いも銀行にいったら\$に変えるなど、私も初めての事があり、とまどう事がありましたが、何とかサクラメントに出発する事ができました。子供も色々胸をふくらませ飛行機に乗り込んだ事だと思います。サクラメントに行ってから10日間、親として不安があったけれど、初めての2、3日はすごく長く感じ、帰る2、3日前は「もう帰ってくるの?」という感じでした。今思うと出発する前の子供の顔がまだ幼く感じましたが、帰国してからの子供の顔を見るとホッとしたのがあります。少し大人びてしっかりした顔つきになったような気がします。家につきホッとしたのか時差の関係もあり、すぐに寝てしまいました。翌日、土産話も沢山してもらい、とても楽しかったみたいで、サクラメントに行けて「本当に良かった」と喜んでいました。私も親として貴重な経験ができてよかったと心から思います。子供はこれからの人生の中で、サクラメントに行き行って学んだ事を忘れずに色々な事にもチャレンジしてくれればと思います。